



←これは何だと思いで
すか？ この実が大きく
なるとブドウのようにたれ
下がってきます。そうです
クルミの赤ちゃんです。

→5月も20日にも
なると急に夏日に
なった。売店では
かき氷を始めた。

ついに日中の気温が三十度を超え、夏日になった。ついこの前までは穏やかな気候だったのに、わずか数日でえらい変わりようだ。

ところで、ちかごろ世間では、キレる老人、がふえているといわれるが、矢切の渡しでもそんな光景を目にすることがあった。

年のころなら七十代と思える高齢者の一団がやって来た。女性七人、男性四人の仲良しグループなのか、なかの一人の男性がリーダーらしかった。

時間は午前中で一便の舟が東京側から客を乗せてこちらに向かっていると、きだった。

舟頭は最初の客だったせいもあり、客に説明をしながら、流れにまかせてゆつくりと舟を進めていた。

「進んでる、進んでる。ゆつくりとだけど、こちらへ来ているよ」

「なにか説明してるのかなあ、話してるみたいだよ」

「のんびりと、乗ってる人は気持ちいいだろうなあ」

グループは、てんでに話していた。



今週のクマ

→得意気なクマ。ムクドリを捕まえ、この日は一日中獲物の番をしていました。



→道端に真っ赤に熟れたイチゴ。だれも足を止めません。ヘビイチゴだからです。食べても味もしません。



そこにリーダーらしき男性が先に舟の代金を払って仲間と合流すると、
「なにやってんだよ。ずいぶん遅いじゃないか」

開口一番、そういったかと思うと、そばで見えていた私に向かって、

「おい、早く来るようにいえよ」

聞こえてはいたが、私は聞こえなかつたふりをしていた。すると、まわりの仲間聞こえるように、

「早く来いよ」

「しっかり、こげよ」

仲間は聞こえているはずなのに、なにもいわない。

「まったく、なにをしてんだよ。こっちで客が待ってるんだよ」

いま舟に乗っている人たちもお客さんなのだから、舟頭としては、サービスのつもりで、できるだけゆつくりと舟をこいでいるのだろう。

ところが、リーダーらしき男性からすると、いま乗っている客のことなど、どうでもいいのだろう。

いってみれば、わがままだ。他人のことなどより自分たちが中心なのだ。こういう人がキレル老人になるのだろう。